

留学を終えて
聖マリア女学院高等学校 永井 蒼璃沙(カナダ)

私はカナダで一年間の留学生生活を終え、貴重な経験と自己成長を得ることができました。留学生生活は SNS や他者が語る輝かしいものとは異なり、多くの困難に直面しましたが、そうした壁を乗り越えたことにより、今後の人生において非常に価値のある教訓を得ることができました。本レポートでは、学校生活と私生活の 2 つの視点から、留学中に学んだことについて述べます。



カナダの学校生活において、私は多くのことを学びました。まず、カナダの学生たちは非常に親切で、授業中に困った際には積極的に助けしてくれました。これは留学生にとって大きな支えとなりました。しかし、親切である一方、私は「留学生」というレッテルを貼られることが多く、現地の生徒との間に距離を感じることも少なくありませんでした。実際に、留学初期には授業で私を助けてくれたクラスメイトをランチに誘い、一緒に食事をしましたが、会話の輪にはなかなか入れず、疎外感を抱くことがありました。

しかし、私はこの状況を改善すべく努力しました。授業中に積極的に声をかけたり、ランチに誘ったりすることで、次第に現地の生徒たちと関係を築くことができました。時間が経つにつれて、信頼できる友人を作ることができ、今ではその一人一人がかけがえのない存在となっています。この経験から学んだことは、他者の優しさに甘えるだけでなく、積極的に自ら行動を起こすことが重要だということです。自分から関わりを持つことは決して簡単なことではありませんが、それを乗り越えたことで得られた友情は私の人生において大きな財産となっています。

私生活においても、カナダでの留学生生活は多くの学びを与えてくれました。カナダはキリスト教が盛んな国であり、街中には多くの教会が見られ、日常生活の中でキリスト教に関するさまざまな活動に触れることができました。私は「Youth Group」という団体に参加し、若者たちと共に聖書を学ぶ機会を得ました。この団体は、神に対する従順心やリーダーシップの育成を目的としており、時にはグループで親睦を深めるために野外活動や誕生日パーティーを行うこともありました。こうした活動を通じて、カナダの若者たちの信仰心やコミュニティとのつながりを深く理解することができました。

また、「Missions trip」という活動もありました。この活動は、春休みなどの長期休みにアフリカやタイ、メキシコなどの国々へ訪れ、現地の子供たちと交流しながら、聖書を教える

というものです。Missions trip では、聖書を教えるだけでなく、現地の人々に家を建てる支援が行われたり、衣類を寄付するなど、物理的な支援も行っています。私のホストシスターもこの活動に参加しており、現在タイで活動しています。このように、カナダでは信仰心を大切にし、他者のために生きるというキリスト教の教えを実践していることに深い感銘を受けました。

この一年間の留学生活を通じて、私は多くの困難や壁に直面しましたが、それを乗り越えることで得た学びは計り知れません。学校生活においては、積極的に関わりを持ち、現地の人々との壁を乗り越えることで貴重な友情を得ることができました。また、私生活では、異文化に触れ、宗教や価値観について深く学ぶことができました。これらの経験は、私の今後の人生において大きな糧となると確信しています。

